○野菜の消費拡大の取組について（概要）

資料4

会員名	取組の概要
全国農業協同組合連合会	・JAグループの青果物の消費拡大
全国地域婦人団体連絡協議会	・第58回全国地域婦人団体研究大会の開催　等
（社）日本栄養士会	・「野菜を食べよう～メタボ撲滅～シンポジウム」の開催
（財）日本食生活協会	・食事バランスガイドの普及
NPO法人　青果物健康推進協会	・夏ベジプロジェクト　等
ファイブ・ア・デイ協会	・食育体験学習　等
（社）全国中央市場青果卸売協会	・青果物消費拡大に向けたPR活動
（財）食品産業センター	・平成21年度食農連携事例情報活用支援事業の実施
全国青果物商業協同組合連合会	・第20回　都民のための野菜天国・果実王国・花華楽園まつり2009の開催
農林水産省	・鍋ほか推進プロジェクト2009（秋冬野菜の消費拡大）
（独）農畜産業振興機構	・消費拡大事業（平成21年度緊急需給調整推進事業）

平成21年10月13日

〔第8回野菜需給協議会資料〕

JAグループの青果物消費拡大の取組について

全国農業協同組合連合会

1. これまでの取組概要

(1) 全農チビリンピック会場での試食宣伝

ア. 実施日　平成21年5月5日（火）9時～14時

イ. 場所　　日産スタジアム（『ＪＡ全農チビリンピック２００９』会場）

西ゲート　JA全農お楽しみ広場

ウ. 参加者

(ｱ) きゅうり参加産地　高知県園芸連、J宮崎経済連、ＪＡ全農いばらき、ＪＡ全農ぐんま、ＪＡ全農さいたま、ＪＡ全農ちば

(ｲ) とまと参加産地　JA静岡経済連、JAあいち経済連、JA熊本経済連、JA全農とちぎ、JA全農ちば、JA全農ふくれん

エ. 内容

(2) キャベツの無償配布イベントを通じてキャベツの消費拡大をＰＲ

ア. 実施日　平成21年8月2日（日）13:00～

イ. 場所　　新宿高島屋タイムズスクエア2階ＪＲ口特設会場

ウ. 内容

(ｱ) キャベツの無償配布（800個）

(ｲ) 県本部作成キャベツレシピ配布と、農水省の夏ベジのお知らせ、夏野菜のレシピを配布した。

(3) 「やさいの日」の全国一斉取組の概要

平成21年度青果物消費拡大の取組の一環として、8月31日（やさいの日）を中心に、ファミリー層をメインターゲットとした全国一斉取組を以下とおり実施した。

ア. 各県農協・県連・県本部の取組･･･詳細別紙

イ. 内容

内容	県数	内容	県数
駅前・街頭・量販店などでのチラシ配布	32県	県産品の販促関連	23県
イベント等への参画	14県	料理教室・出前事業など	4県

*各県の報告に基づく集約結果。取組内容により重複してカウントしているため、合計は47県を超える。

駅構内でのチラシ配布

地元野菜直売会

イベントへの開催

子供たちにチラシの配布

(4) 全農本所の取組

ア. 内容：イベントの開催

(ｱ) 日時：平成 21 年 8 月 29 日

(ｲ) 場所：ららぽーとＴＯＫＹＯＢＡＹ

(ｳ) 主催：本会および青果物健康推進協会

(ｴ) 後援：農林水産省

(ｵ) 協賛：味の素、キッコーマン、キユーピー、ハウス、日本栄養士会、ＪＡ全農茨城

(ｶ) 内容：

①タレントトークショー

②ＴＡＣによる産地、特産品の紹介

③レシピコンテスト

④協賛企業試供品プレゼント

⑤栄養相談コーナー

会場の様子

ＴＡＣの紹介

タレントトークショー

レシピコンテスト

2. 今後の取組内容

(1) 小学校出前授業

(ｱ) ＮＰＯ法人青果物健康推進協会（ベジフルセブン）が実施する出前授業に対し、

ＪＡグループでは、地元青果物の提供・レシピや販促資材の配布・職員の派遣など協力し、連携して取り組む。

イ. 取組規模　全国の小学校 77 校（196 クラス）

ウ. 実施内容

(ｱ) ベジフルティーチャーが青果物の美味しさをアピールする。

(ｲ) 地元青果物を子供たち宣伝し、消費拡大のきっかけ作りとする。

(2)大学生向け特別授業（筑波大学）

ア.日時　平成 21 年 11 月 18 日（水）15.15～18.25

イ.場所　筑波大学

ウ.主催　筑波大学と本会の共同開催とする。

エ.内容　生命環境学群生物資源学類の１年生の必須授業の１コマとして実施する。

(ｱ)野菜・果物摂取の健康増進効果に関するセミナー

①講師：林芙美（医学博士）

②時間：約 50 分

(ｲ)パネルディスカッション

①タイトル：（仮題）「野菜・果物と若者のライフスタイルの結びつき」

②パネラー：筑波大教授、学生２名、椎名部長、林芙美氏、
近藤卓志（進行役、青果物健康推進協会専務）

③時間：約１時間

(3)学食での野菜鍋メニューの提供および鍋実習（東京農業大学他３校程度予定）の開催。（詳細については今後決定）

以　上

○当面の野菜関係の取組について（全国地域婦人団体連絡協議会）

〔今年度の実績〕

各地で開催した行事を通して、地産地消の取組において野菜関係の消費拡大を図りました。詳細は下記のとおりです。（同様の取組を50加盟団体が全国各地で行っています。）

1. ①期間・日付	平成21年9月4日（木）
②対象	北海道・東北圏域の加盟団体会員　201名
③タイトル	第48回北海道・東北ブロック地域婦人団体研究大会
	第1日目　問題提起並びに研究討議
	頑張る母さんの"美味しい"まちづくり～地産地消に夢をたくして～
④概要	北海道の東靖子さん（JAむかわ元理事）が地産地消への取組を、産直市からスタートし、特産物直売所へと拡大させた事例を報告後、討議。
2. ①期間・日付	平成21年9月11日（木）
②対象	関東ブロック圏域会員　61名
③タイトル	関東ブロック会議
	第1日目　分科会
	食糧自給率をあげるために～地産地消に夢かけて～
④概要	千葉県指導漁業士・木更津市農業委員の齋藤高根さんが、生産者の立場として食の安心安全をまもる取組を講和後、討議。
3. ①期間・日付	平成21年10月2日（木）
②対象	九州ブロック圏域の会員　191名
③タイトル	九州ブロック会議
	第2日目　分科会
	食の問題　食と健康を考える
④概要	沖縄の松本料理学院・松本嘉代子院長が、心身ともに健康の基本は食からと題した講和後、討議。

〔今後の予定〕

1. ①期間・日付	平成21年10月9日（木）
②対象	全国の加盟団体員　101名
③タイトル	第58回全国地域婦人団体研究大会
	第2日目　分科会
	食の安全安心
④概要	ほねとぶネットの食育コーディネーター・大村直己さんと、農林水産省関東農政局消費・安全部消費生活課の坂本里美課長が食育について講和後、討議。

「野菜を食べよう－メタボ撲滅－シンポジウム」実施報告

2009.9.14

1．概　　要

（1）日　　時：平成21年8月31日(月・野菜の日)　12:00～17:00
（2）場　　所：ヤクルトホール
（3）主　　催：(社)日本栄養士会
（4）後　　援：厚生労働省、農林水産省、メタボリックシンドローム撲滅委員会
（5）協　　力：(独)農畜産業振興機構、全国農業協同組合連合会

2．進　　行

①シンポジウム

時　　間	項　　目	内　　容
１２：００	開　　場	
１３：００	開　　会	
	主催者挨拶	(社)日本栄養士会会長　中村　丁次
１３：１０	講　　演	「私の健康づくりと野菜」
		(学)服部学園服部栄養専門学校理事長／校長　服部　幸應
１３：４０	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ	「野菜の機能性と生活習慣病予防」
		座長：(社)日本栄養士会会長　中村　丁次
	講　　演	「野菜･果物とがん･循環器疾患との関係」
		国立がんセンターがん予防検診研究センター
		予防研究部長　津金昌一郎
	講　　演	「わが国の野菜摂取実態と野菜の役割」
		大妻女子大学家政学部食物学科長・教授　池上　幸江
	講　　演	「食を通した健康なまちづくり―地産地消と食育の推進―」
		秦野市こども健康部健康づくり課管理栄養士　深川やよい
	総合討論	
１５：３０	閉　　会	

②野菜クイズ　(15：50～16：20)
解答発表：フリーアナウンサー・栄養士　中岡　由佳
全問正解の賞品：カロリーハーフドレッシング（協力：キユーピー㈱）

③展示･体験コーナー　(12：00～13：00、15：30～17：00)
1) 野菜の機能性等に関する展示：魔法の７色野菜（協力：㈱法研）
書籍「病気にならない魔法の７色野菜」を参考に７色野菜と総括のパネルを作成
2) 350グラムってどれくらい？（協力：㈱いわさき）
食育SATシステムによる食事診断。併せて生の野菜350ｇ分を展示
3) 管理栄養士による栄養相談コーナー

日本栄養士会栄養ケア・ステーションの登録管理栄養士による食生活相談。SAT システムの結果を使用しての相談も行った。

・栄養相談実施件数　44 件

相談内容：食生活全般について、糖尿病について、野菜ジュースについて、特定保健用食品について、学校給食について等

3．参　加　者

・ 参加者数 ：403 名

内　　訳	人　　数
一　　般	359
マスコミ関係者	10
小　　計	369
座長・講師	6
スタッフ	28
合　　計	403 名

4．運　　営（運営マニュアル別添）

日本栄養士会役職員等により、講師・来賓接待係、受付係、会場案内係、パワーポイント係等の各役割分担に従って運営した。

（1）配布資料

① プログラム

② アンケート用紙

③ 野菜クイズ解答用紙

④ 健康増進のしおり　No.2009-2「野菜を食べよう－野菜をもっと食べて、健康生活へ－」

⑤ 生涯学習振替単位取得証明書

⑥ 小冊子「野菜づくりで発見！」、「やさいのひみつ」（農畜産業振興機構）

⑦ 小冊子「野菜ってすごい！」（カゴメ）

⑧ 野菜イラスト入りクリアファイル（全国農業協同組合連合会）

（2）来場者へのお土産（アンケートと引き換え）

カゴメ　野菜しぼり（野菜ジュース）／ヤクルト　気になる野菜（野菜ジュース）／ハウス食品　ジャワカレープライム（カレールウ）・カレーレシピ集

5．ま　と　め

・アンケート結果（別添）

・初めての試みで事前申込者数の把握が難しかったため、毎日新聞、銀座 Hot vison や農畜産業振興機構機関誌・メールマガジン等にも募集告知を掲載した。その結果、事前申し込み者と当日申込者を合わせて 400 名を超える参加者数となった。

・シンポジウム詳細は「日本栄養士会雑誌」第 52 巻 12 月号へ掲載予定

以　上

野菜を食べよう－メタボ撲滅－シンポジウムアンケート結果

2009.9.25

アンケート配布数	回収数	回収率
359枚	313枚	87%

1．性 別

男性	女性	無回答
42	261	10
13%	84%	3%

2．年 齢

20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
2	57	69	55	62	63	5
1%	18%	21%	18%	20%	20%	2%

3．職 業

管理栄養士･栄養士	医師	保健師	会社員	学生	その他	無
220	0	6	37	4	39	7

その他：公務員、農業自営、アルバイト

4．どちらからいらっしゃいましたか

東京	神奈川	千葉	埼玉	茨城	栃木
128	44	37	46	14	5

群馬	その他	無回答
6	32	1

その他：岩手、滋賀、奈良、岡山

5．このシンポジウムを何でお知りになりましたか（複数回答可）

日本栄養士会雑誌	HP	新聞	銀座Hotvision	雑誌	その他
199	54	13	0	5	46

HP：日本栄養士会22名、中岡由佳さんブログ5名、農林水産省4名、農畜産業振興機構2名、
v350f200（野菜等健康食生活協議会）

新聞：毎日、健康産業新聞

雑誌：野菜情報

その他：知人の紹介、家族の紹介、関係団体、職場

6．今回の「野菜を食べよう-メタボ撲滅-シンポジウム」についてお聞かせください

（1）講演・シンポジウムの構成について

大変よかった	まあよかった	どちらでもない	あまりよくなかった	よくなかった	無回答
132	153	10	3	0	15
42%	49%	3%	1%	0%	5%

（2）講演・シンポジウム内容について

大変わかりやすかった	わかりやすかった	どちらでもない	少しわかりにくかった	わかりにくかった	無回答
151	141	8	1	1	11
47%	44%	3%	1%	1%	4%

（３）展示・体験コーナーについて

大変よかった	まあよかった	どちらでもない	あまりよくなかった	よくなかった	無回答
54	190	28	8	2	31
17%	60%	9%	3%	1%	10%

一番よかった展示：350グラムってどれくらい24名、野菜の機能性の展示11名、栄養相談コーナー4名
カゴメ、キユーピー

（４）シンポジウムに参加して野菜・野菜の機能性に対する考え方は変わりましたか

はい	いいえ	無回答
234	59	20
75%	19%	6%

具体的にどのように変わったか
・サプリメントの摂取について正しく摂るように気をつけたい思うようになった。
・しっかりとしたエビデンスをもとに、知識を増やそうと思った。
・特定の野菜をとるのではなく、様々な野菜を組み合わせて摂ることが大事、ということを意識した。

（５）シンポジウムの内容を普段の食生活に反映させようと思いましたか

はい	いいえ	無回答
276	17	20
89%	5%	6%

具体的にどのように反映させようと思ったか
・意識して一食につき一品野菜料理を食べる。
・普段から野菜は食べるように心がけてはいるが、350g摂れてはいないので、自分で料理する時は野菜をもっと摂れるようにしたい。また、果物も同じように意識して食べていきたいと思う。家族にも広めていきたいと思う。
・サプリメントの購入を今一度考えたい。過剰摂取に気をつけたい。
・そのままレンジで加熱したり、蒸したり、カサを減らして量をとろうと思う。調理に応用もできるので、この食べ方は一人暮らしの子どもにもすすめたい。
・子どもの食べず嫌いに粘り強く付き合おうと思った。

○当面の野菜関係の取組について（日本食生活協会）

1．食事バランスガイドの普及
　特に食生活改善運動（厚生労働省と協賛）ポスターで1日5皿の野菜摂取を入れて全市町村・保健所・団体へ配布を行う

2．なお、標記5皿摂取が可能なのか等を協議の末、1日350gに対し健康日本21の中間報告では293g摂れていることになっているので、差し引き57gとなり、約「1つ」（70g）なので、まずは1皿を取りましょう」の運動を加えました。

　以上における効果測定実施。

第８回野菜需給協議会資料

平成21年11月9日

青果物健康推進協会の消費拡大の取組について

ＮＰＯ法人青果物健康推進協会

これまでの取組

１，　夏ベジプロジェクト
ベジフルティーチャーであるタレントの長谷川理恵を起用した夏野菜レシピ、ミニのぼり、ＰＯＰ等の開発、制作。会員のスーパー、量販店等で設置、配布。

２，　全農と共催により「やさいの日」のイベント開催。

３，　全国の小学校に専任講師（ベジフルティーチャー）を派遣し、「地元の野菜を知って、野菜博士になろう」をテーマに授業を実施。（地元の野菜についての講師等は全農と連携）。【資料１】

４，　各企業の健康管理部門と協力し、メタボ対策による野菜摂取拡大支援事業の推進。【資料２】

今後の取り組み

１，　鍋ほかプロジェクト
①「野菜がおいしゅうございます鍋レシピ」等を制作し、会員のスーパー、量販店、小売店等で配布。
②全農との協力により首都圏の大学において、学生らに「鍋」を通じて野菜の摂取拡大を呼びかける啓発活動の実施。

２，　全国の小学校での出前授業の実施。全220回程度を予定。

３，　各企業の健康管理部門と協力し、メタボ対策による野菜摂取拡大支援事業の推進。取組みを行っている企業は、ＮＥＣ，ＮＴＴデータ、沖電気工業、古川スカイの４社、１３事業所で実施予定。

４，　野菜摂取拡大に取組む企業の事例等を広く周知し、野菜摂取拡大に貢献するための研修会を東京、大阪で開催。【資料３】

５，　「国産野菜がおいしゅうございます認定店」の事業推進。基準に沿って、外食店舗を認定し、「岸朝子」名の認定書を授与する。【資料４】

６，　野菜の産地廃棄を予防することを目的とした Emergency・Vegetables・Support-Team の発足。メンバーは、２年以内に現在の３００人から１０００人に拡充。研修会の開催、アクションプランの設計を行う。

平成21年10月吉日

各 位

野菜等健康食生活協議会
（青果物健康推進協会）

企業・団体の健康管理支援部門や栄養士の方々を支援する

野菜摂取拡大支援事業 研修会

開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、日本人の野菜摂取量は減少傾向にあり、健康の観点から定められた摂取目標量である350グラムを全ての年代で下回っています。一方、企業では平成20年4月からメタボリックシンドロームの早期発見、予防を目的とした『特定保健指導』がスタートしましたが、企業での具体的な取組は普及段階にあります。そこで、本野菜摂取拡大支援研修会では、従業員の健康増進のために、野菜摂取拡大による食生活改善に取組む企業の事例や取組ポイントなどについて情報発信し、企業の健康管理部門担当者等に対し、自社での野菜摂取拡大による食生活改善の取組について啓発していくとともに、企業の従業員食堂などでの野菜利用拡大に不可欠な経費面についても、産業構造の観点からのセミナーを開催することで、解決策を探ってまいります。

どなた様も入場無料の研修会ですので、奮ってご参加下さい。

（記）

1. 実施内容： 企業・団体の健康管理や支援部門、栄養士を対象とした野菜摂取拡大支援を目的とする研修会。

2. 来場対象： ・企業の健康支援部署（福利厚生部署など） ・社員食堂担当者 ・保健師 ・栄養士
・保健所担当（各区/行政） ・給食業者（受託食事サービス） ・社員食堂等への納入業者

3. 開催時期及び開催場所：2009年11月11日（水） 東京ビックサイト・東4ホール 『生活習慣病対策展2009』
※上記イベント（主催：（社）日本能率協会）の特設ステージにて実施。http://www.jma.or.jp/hs/

4. 入場料： 無料（同封しております『招待状』をご持参ください。）
※本プログラムの予約受付等は必要ありません。

5. プログラム：
①13:30～14:15（45分） **【基調講演】安倍 孝治氏**
（特定非営利法人健康経営研究会 副理事長/ワールド健康保険組合 専務理事）
テーマ：『企業の健康経営とは ～従業員の健康支援と企業の健全経営の関係～』
②14:30～16:00（90分） **【企業が取り組む食生活改善レポート】**
・実際に企業が取り組んでいる野菜摂取拡大事例の発表
③16:10～16:55（45分） **【合同パネルディスカッション】**

6. 主催： 野菜等健康食生活協議会

7. 後援： 農林水産省（予定）

本件に関しての御不明な点、御質問等ございましたら、『野菜摂取拡大支援事業 研修会』事務局
（株式会社ネオテリック内）担当：小野寺/小林（TEL：03-5728-8233）まで御連絡ください。

2009年11月11日(水)の『生活習慣病対策展2009』にお越しになれない方にも朗報です！

『野菜摂取拡大支援事業 研修会』
大阪・東京の2会場にて"追加研修会"開催決定!!

【第2回研修会】

◆日　時：**2009年12月17日(木)** 13:00～16:40
◇会　場：**大阪産業創造館 イベントホール(4F)**　http://www.sansokan.jp/
◆住　所：〒541-0053 大阪市中央区本町1-4-5
◇最寄駅：地下鉄「中央線」堺筋本町駅下車徒歩約5分
　　地下鉄「堺筋線」堺筋本町駅下車徒歩約5分

【第3回研修会】

◆日　時：**2010年2月25日(木)** 13:00～16:40
◇会　場：**東京ビックサイト 会議棟(607/608号室)**
※第3回研修会は、ホスピタリティと食の専門展示会『ホテレスジャパン2010』の一環として開催いたします。　http://www.jma.or.jp/hcj/

～ご注意～
①上記、2会場の内容とも第1回研修会と同内容となります。
②時間・内容等は、予告なく変更する場合がございます。

御来場を希望される方は、大変恐れ入りますが当送信書にご記入いただき、
下記宛先までそのままファックスにてご送信ください。

送信書：『野菜摂取拡大支援事業 研修会』運営事務局 行　**FAX：03-5728-8234**

※御出席されたい会場の右側空欄に○印をおつけください。
なお、表面に掲載しております11月11日の研修会には、お申込みの必要はございません。
※御応募が規定数に達しました時点で、お申込みを締め切ります。締め切り後にファックスいただいた方には、おって御連絡させていただきます。

第2回：大阪会場(12月17日) 申込み締切：12月15日		第3回：東京会場(2月25日) 申込み締切：2010年2月23日	

■貴社名：　　■お名前：　　(他　　名)

■電話番号：　　■メールアドレス：

■職種(以下のどれか当てはまるものに ☑ チェック印をおつけください。)

☐ 企業の健康支援部署(福利厚生部署など)　☐ 社員食堂担当者　☐ 保健師　☐ 栄養士
☐ 保健所担当(各区/行政)　☐ 給食業者(受託食事サービス)　☐ 社員食堂等への納入業者　☐ その他

この件に関するお問い合わせ先
『野菜摂取拡大支援事業 研修会』事務局(株式会社ネオテリック内)
担当：小野寺/小林　TEL：03-5728-8247　FAX：03-5728-8234

くらし　学び

健康プラス

学んで食べて「博士」に

野菜のすすめ　2

「東京ではカルシウムが豊富な小松菜が有名です。地域によって時期は違いますが、旬の野菜は栄養分いっぱいで、とてもおいしいですよ」

東京・新宿区立富久小4年生の教室。子どもたちは、講師の「ベジフルティーチャー」の説明に聞き入った。講師が強調したのが、「ベジフルセブン」。野菜は1日どのくらいの量を食べればいいか、ピンと来ない人向けの造語だ。ベジタブル（野菜）の入った副菜を5皿（350グラム）と、フルーツ（果物）2皿（200グラム）で、合計7皿分食べようという試みを指す。

野菜博士心得5か条

①毎朝、野菜料理を食べる
②野菜を好き嫌いなく食べる
③苦手な野菜も使って簡単な料理をする
④毎日、野菜料理5皿分以上食べる
⑤野菜の必要性を、家族・友人に伝える

運動を推進するNPO法人・青果物健康推進協会（東京）は、子どものうちから、野菜の大切さを身に着けてもらおうと、食育活動に力を入れている。今年度は「地元の野菜を知って、野菜博士になろう」をテーマに、野菜博士になるための5か条の心得などをまとめた冊子を作成、各地のJAや生産農家の協力も得て、地元の旬の野菜を活用した授業を行っている。

授業の後、野菜料理を何皿食べたかを約1週間記録したり、野菜料理作りに挑戦したりする宿題を出し、達成すれば野菜博士のカードがもらえるのも楽しみ。富久小の松田英子教諭は、「様々な野菜をとることの大切さを学んだ子どもたちは、給食でも積極的に野菜を食べるようになる」と効果を話す。

小学生に旬の野菜について説明するベジフルティーチャー（富久小で）

わかっているようで、食生活での実践に結びつかないのが野菜の知識。大妻女子大の池上幸江教授（栄養学）は、「野菜には食物繊維やビタミン、ミネラルなどの栄養成分のほかに、様々な機能性成分が含まれている。十分に摂取している人は、疾病リスクが低く、健康状態もよいという報告が多い。バランスよく食べるのが望ましい」と解説する。教育が必要なのは子どもばかりではないようだ。

今週は社会保障部の担当です。

社食でメタボ対策

従業員のメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防に取り組む事業所が増えている。野菜たっぷりで栄養バランスに優れたヘルシーランチを産業医が推奨するなど、社員食堂のメニュー改善に力を入れる企業の取り組みを追った。

（内田健司、写真も）

＊栄養展示会

バランスよく食べることが、健康への近道です――。

東京都港区のNEC本社11階と12階にある食堂フロアで、今月19日から22日にかけて、社員食堂を担当する関連会社「NECライベックス」による栄養展示会が開かれた。テーマは「ベジフルセブンでヘルシーライフ」。

ベジフルセブンとは、ベジタブル（野菜）の入った副菜5皿（計350グラム）と、フルーツ2皿（計200グラム）を合わせて、毎日7皿食べようと呼びかけるキャッチフレーズ。運動を推進するNPO法人青果物健康推進協会の講師によるブロッコリーなどの野菜をおいしく食べるセミナーのほか、栄養相談、野菜クイズなどが、社員の関心を集めた。

展示会に合わせて、野菜を1食で350グラム分使った特別メニューも用意。19日から、新ヘルシーランチも登場した。20日には、揚げ物に似せて調理した焼き方ツを「ヘルシーグリルカツ」と名付けて提供し、222食が完食となった。今後、71か所ある全国の社員食堂でも提供する予定だ。

調理方法で一番変わったのは、塩分を1食当たり3・6グラムと、従来より1割少なくしたこと。来年4月に改定される厚生労働省の食事摂取基準を先取りしたもので、管理栄養士の有馬まゆさんは「薄味でもおいしく食べられ、満足してもらえるよう、食材や調味料、調理方法を工夫しました」と話す。

野菜を食べようと呼びかける栄養展示会と特別メニューに関心を示す社員ら（東京都港区のNEC本社で）

＊推奨メニュー

メニューの改善だけではない。NEC健康管理センターと手を組んで、このランチを推奨しているのも新しい取り組みだ。

産業医の柿沼歩センター長の発案で、腹囲などを測るいわゆるメタボ健診（特定健診）の結果、生活習慣を改善するための保健指導を受けることになった従業員と面談する際などに、新メニューを勧めることにした。

特に40歳以上の社員の4人に1人は、メタボの保健指導対象者に該当するといい、柿沼さんは「半数近い人は運動をしていない。そこでまずは、食事に気を配る習慣を身につけてほしいと考えた。カロリーを絞るだけではダメで、バランスよく食べることが大切なことをわかってほしい」と力説する。

食堂では、カロリーや塩分摂取量が会計時に表示されるレジスターを、1年前から導入。30歳の従業員を対象としたワーク・ライフ・バランス研修にも栄養セミナーを加えたほか、家族参加型の健康行事に取り組むなど、様々な機会を通じて社員の「脱メタボ」に力を入れている。

＊野菜の消費拡大

社員食堂での食生活を改善する取り組みは、野菜の消費拡大を目指す農林水産省も後押ししている。

財団法人食生活情報サービスセンターは先月、「従業員食堂における野菜摂取推進活動の手引き」を作成。健康管理部門と食堂が一体となって取り組み、個別指導の結果、体重が減り、腹囲が締まった事例などを紹介している。

青果物健康推進協会は、NTTデータの特例子会社「NTTデータだいち」が、11月から本社社員研修で提供する「ベジフルセブン弁当」（仮称）の監修などにも協力している。近藤卓志事務局長は、「社員食堂の運営会社や企業の健康管理部門の担当者、栄養士を対象にした研修会も開いており、野菜をバランスよく食べて元気に働く社員が増えてほしい」と話している。

お役立ち情報

◇青果物健康推進協会（☎03・3770・3701、http://www.vf7.jp）

◇食生活情報サービスセンター（☎03・3665・0291、http://www.e-shokuseikatsu.com/）

＊緊急シンポジウム「親権法改正をめざして――現場からの提言」　11月3日午後1時～4時半、東京都港区の発明会館。法務省の主導で検討が進められている「児童虐待にかかる親権制度の見直し」の内容について、司法、福祉、医療など、様々な分野の専門家らが討議する。無料。NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク（☎、ファクス03・6380・6380）。

■お便りをお寄せ下さい。
〒100・8055読売新聞東京本社・社会保障部（ファクス03・3217・9957、Eメールansin@yomiuri.com）

野菜が
“おいしゅうございます”
認定店

★★★★★

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

貴店は岸朝子会長の
「野菜がおいしゅうございます」認定委員会より
野菜がおいしくたくさん食べられる店として
認定したことをここに証します。

NPO法人 青果物健康推進協会
会長　岸　朝子

ベジフルセブン

野菜が
“おいしゅうございます”
認定店

★★★★★

殿

貴店は岸朝子会長の
「野菜がおいしゅうございます」認定委員会より
野菜がおいしくたくさん食べられる店として
認定したことをここに証します。

NPO法人 青果物健康推進協会
会長　岸 朝子

ベジフルセブン

○当面の野菜関係の取組について（ファイブ・ア・デイ協会）

○食育体験学習
・小学校の児童を対象に会員量販店の店頭において食育体験学習を実施。
今年度目標600回／10月までの実績486回

○企業ウェルネス（従業員食堂における食育）
・7社の従業員食堂において、野菜たっぷり定食の提供、健康相談デーの実施。

○外食・中食における野菜摂取啓発
・コンビニエンスストア店頭における野菜摂取啓発（POP掲示等）
・外食店舗における野菜摂取啓発（POP作成・掲示等）
以上における効果測定実施。

○当面の野菜関係の取組について（（社）全国中央市場青果卸売協会）

国産野菜の消費拡大の取組について、全国中央市場青果卸売協会予算（会員会費）の中からNPO法人青果物健康推進協会に対し、毎年、協力金を支出し、同協会が行う消費拡大に対する事業支援を行っている。

また、卸売市場の卸売り会社は一般的に消費者と直接交流する機会がないが、各卸売市場が解説者、卸売業者、仲卸業者、買参小売組合がいったいとなって取組む「市場まつり」等イベントにおいて、市民への青果物消費拡大PR活動を推進している。

○当面の野菜関係の取組について（（財）食品産業センター）

平成21年度食農連携事例情報活用支援事業

本事業では食品事業者及び農業者を対象にしたセミナーを実施し、
地域の農産物を使った食品の開発事業情報を発信する。

今年度取り上げた、野菜を使った取組は以下の4件

1	株式会社グリーンパートナー	じゃがいも、たまねぎ	新技術過熱水蒸気処理）を使用した、じゃがバター、たまねぎなど
2	株式会社四十萬谷本舗	かぶら	かぶら寿司
3	市岡製菓（株）	鳴門金時いも	菓子類
4	わかば食品（株）	有機に近いキャベツ	お好み焼き（チルド、冷凍）

セミナーの日程は以下の通り。

1. 北海道地区（旭川）11月13日
2. 北陸・東海地区（名古屋）平成22年1月下旬
3. 中国・四国地区（岡山）10月23日

別紙

全国青果物商業協同組合連合会

第21回　都民のための野菜天国・果物王国・花華楽園まつり 2009　会場一覧表

平成２１年　８月　６日　現在

	開催日時	会 場 名	会場所在地	ＴＥＬ	備 考
1	9月27日（日） 10：00～13：00	北足立市場特設会場	〒121－0836 足立区 入谷 6－3－1	(3857) 7271	
2	10月 4日（日） 9：30～12：30	葛西市場特設会場	〒134－0086 江戸川区 臨海町 3－4－1	(3878) 2055	
3	10月 4日（日） 10：00～13：30	世田谷市場特設会場	〒157－0074 世田谷区 大蔵 1－4－1	(3417) 3236	
4	10月18日（日） 10：00～13：30	豊島市場特設会場	〒170－0002 豊島区 巣鴨 5－4－1	(3918) 7371	
5	10月25日（日） 9：30～13：00	板橋市場特設会場	〒175－0082 板橋区 高島平 6－1－5	(3938) 6800	
6	10月25日（日） 9：00～13：00	淀橋市場特設会場	〒169－0074 新宿区 北新宿 4－2－1	(3371) 0990	
7	10月18日（日） 9：00～13：00	国立市場特設会場	〒186－0011 国立市 谷保 367	042 (580) 0522	多摩地区青果小売商連合協議会主催

第20回　都民のための野菜天国・果物王国・花華楽園まつり2008

東京都青果小売商団体協議会　http://www.shoukumi.or.jp

活動の概要

青果小売商が中心となって食育に関するイベントを開催し、都民に対して食育を普及啓発するとともに、市場関係を中心とした団体の交流・連携を促進した。

取組のようす

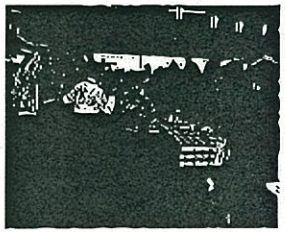
活動の目的

●都民が市場に一層親しみを増すことを期待するとともに「開かれた市場」づくりを目指す。
●「食育推進事業」の一環として、食への関心を高めるべく「食育」と、各種アトラクションによる「親子のふれあいの場」を設け、次世代を担う子供たちに青果物の正しい知識を与える。
●市場が生鮮食料品の流通の重要な役割を担っていることを内外にアピールし、消費の拡大と市場の活性化を図る。
●生産者である各種経済連との交流を図り、消費者の関心の高い食の安全・安心への認識を深めてもらう。

活動の日時・場所

平成20年　9月28日（日）　10:00～13:00　北足立市場（足立区入谷）
平成20年 10月 5日（日）　9:30～13:00　葛西市場（江戸川区臨海町）
平成20年 10月19日（日）　10:00～14:00　大田市場（大田区東海）
平成20年 10月19日（日）　10:00～13:30　世田谷市場（世田谷区大蔵）
平成20年 10月26日（日）　10:00～13:30　豊島市場（豊島区巣鴨）
平成20年 10月26日（日）　9:00～13:00　淀橋市場（新宿区北新宿）
平成20年 11月 9日（日）　9:30～14:00　板橋市場（板橋区高島平）

活動の内容



都内7つの青果市場内において食育に関する展示や催しを行った。
①食育についてのパンフレットの配布による啓発事業。
②子供たちに野菜・果物に関心を持ってもらう各種の取組。
③青年会等による青果物の普及推進および食育の推進。
④家庭の食卓を彩るフラワー・アレンジメントを通した情報発信。

特に工夫したところ
●難しい理論よりも実際に青果物を見たり触ることにより実際に摂取すべき青果物（野菜350g、果物200g）の一日の量や味等を体感してもらうことに重点を置いた。
●野菜そのものの大きさや形を理解（とくに子供たち）してもらうための各種アトラクション。
●食育クイズや野菜ソムリエによる試食コーナーでの知識の啓蒙活動。

関係団体等との連携

連携団体…（1）行政：東京都、各区等
（2）生産団体：JA各県本部、各種苗会社等
（3）市場関係団体：卸売会社、仲卸組合、青果小売商組合、関連業者等
（4）その他協賛企業との連携
具体的な連携内容…●産地等からの青果物の提供および食育関係の情報交換。
●卸売会社、仲卸組合、青果小売商組合、関連業者等の食育に関する連携の強化。

取組の成果

●当事業は、現代人に不足しがちな青果物の消費拡大と普及啓発を主眼として平成元年より実施してきたが、3年前より一般消費者の食育に対する意識向上を図るよう、さまざまな食育活動を行っている。
●市場を中心とした関係団体である卸売会社、仲卸組合、青果小売商組合、関連業者等の連携を図ることが出来た。
●青果小売商が中心となり青果物の知識等を一般消費者に伝えることが出来た。

今後の課題・展望

●市場関係者の食育活動の強化。
今後の取組内容…●食育関係イベントの継続的な開催。
●青果小売商が中心となった食育活動の展開。

この他食育に関する取組

●青果小売商の青果物に対する知識の向上を目指す「八百屋塾」の開講。
●食育委員会を設置し、各種食育活動についての討議・実施。

平成２１年１０月
農林水産省生産局

鍋ほか推進プロジェクト2009（秋冬野菜の消費拡大）について

プロジェクトの趣旨

農林水産省では、これから旬を迎える秋冬の野菜をおいしく食べていただくために、広く国民の皆様へ向けて、体も心も暖まる鍋料理を提案する取組みを進めます。

鍋料理は、野菜だけでなく他の国産食材の消費拡大・自給率向上に資するほか、家族団らん、健康増進、CO_2排出削減効果や郷土料理での村おこしなど様々な効用を併せ持つパワフルメニューです。

そこで、今回、「暖房ほどほどお鍋でほかほか」をコンセプトに「鍋ほか推進プロジェクト2009」を立ち上げ、さまざまな企業、団体や行政機関に呼びかけて、協力の輪を広げながら、この冬の食卓に体も心も暖まる鍋料理を普及する活動を展開し、秋冬野菜をはじめとする国産農畜水産物の消費拡大と自給率向上を図り、併せて、省エネルギーの取り組みを実施していきます。

鍋ほか推進プロジェクト2009のコンセプト

コンセプト：**暖房ほどほど　お鍋でほかほか**

キャンペーンの内容

以下の取組を行います。

（１）統一ロゴマークの活用

本ロゴマークは、プロジェクトの参加企業、団体にパンフレットやイベントなどで活用して頂き、プロジェクトの趣旨の浸透を図ります。

鍋ほか推進プロジェクト

（２）「鍋ほか」キャンペーンソングの提供

参加企業、団体が経費を負担して、鍋ほかソングを製作しました。この鍋ほかソングは、農林水産省のホームページ上で公開し、誰でもダウンロードして、店舗等で使用することができます。

（３）広報資材の提供

プロジェクトを推進するための「ミニのぼり」、「レシピ」、「ＰＯＰ」などのデザインを農林水産省のホームページ上で公開し、誰でもダウンロードして、広報ツールとして使用することができます。

レシピ

ミニのぼり

（４）ホームページの開設

秋冬野菜の魅力、鍋料理の魅力、地域のイベント情報、野菜使いきり鍋レシピ等おいしい鍋の食べ方の情報を提供するほか、協力企業・団体の取組内容などを紹介します。

（http://www. maff. go. jp/j/seisan/ryutu/yasai_zyukyu/y_hokanabe/index. html）

（５）協力企業・団体の募集

本プロジェクトに協賛する企業を募り、広がりのある運動を推進します。

現在、本プロジェクトに対しては、各種食材の生産、流通、加工関係者のほか、味噌、醤油、酒などの調味料・飲料、土鍋やガスコンロ等の調理器具の製造販売、インターネット飲食店検索等の企業、団体関係者にまで参加協力の輪が広がってきており、また、鍋の料理の多面的な効用に関連して、環境省、厚生労働省、観光庁など関係行政機関の協力も得ています。（協力企業・団体・関係省庁一覧参照）

キャンペーンの期間

毎年度、鍋のシーズン（１０月から翌年３月）を集中活動期間として実施します。

鍋ほか推進プロジェクト記者発表会（平成21年10月28日）

お鍋で
ほかほか

鍋ほか推進プロジェクト

鍋ほか

○当面の野菜関係の取組について（農畜産業振興機構）

消費拡大事業（平成21年度緊急需給調整推進事業）

野菜の供給過剰時に生産者団体等が行う消費拡大に向けた取り組みに対して、機構が補助を行う事業。

取組の内容	実施主体	対象品目	実施時期
① レシピ応募サイト開設 ② 新聞広告 ③ WEBバナー広告 ④ ポスター作成(2,000枚)	全農長野県本部	夏はくさい 夏秋レタス	7/28～8/31
① 電車内広告掲載 ② レタスメニューチラシ作成(50,000枚) ③ 試食宣伝販売 ④ レタス料理教室	全農茨城県本部	夏秋・冬レタス	10/12～25
① ラジオＣＭによる消費ＰＲ ② 量販店での販売促進活動	全農茨城県本部	秋冬はくさい	11/7～25 （計画）